

知識ゼロからの

経済学

An introduction of economics
for businessman.
You can understand economic
activities around the world.

入門

Kenshi Hirokane

弘兼憲史

明治大学政治経済学部教授

高木 勝



経済学入門◎弘兼憲史

An introduction of economics for businessman.
You can understand economic activities around the world.

幻冬舎



知識ゼロからの

経済学

An introduction of economics
for businessman.
You can understand economic
activities around the world.

入門



Kenshi Hirokane

弘兼憲史 著

明治大学政治経済学部教授

高木 勝 監修

経済学入門●弘兼憲史

An introduction of economics for businessman.
You can understand economic activities around the world.

幻冬舎

弘兼憲史（ひろかね けんし）

1947年山口県生まれ。早稲田大学法学部卒。松下電器産業販売助成部に勤務。退社後、1976年漫画家デビュー。以後、人間や社会を鋭く描く作品で、多くのファンを魅了し続けている。小学館漫画賞、講談社漫画賞の両賞を受賞。家庭では2児の父、奥様は同業の柴門ふみさん。代表作に、『課長 島耕作』『部長 島耕作』『加治隆介の議』『ラストニュース』『黄昏流星群』ほか多数。『知識ゼロからのワイン入門』『知識ゼロからのカクテル&バー入門』『知識ゼロからの簿記・経理入門』『知識ゼロからの企画書の書き方』『知識ゼロからの敬語マスター帳』『知識ゼロからのM&A入門』『知識ゼロからのシャンパン入門』（以上、幻冬舎）などの著書もある。

装幀 カメガイ デザイン オフィス

装画 弘兼憲史

本文漫画 『課長 島耕作』『部長 島耕作』『取締役 島耕作』『ヤング 島耕作』
『島耕作の優雅な1日』『加治隆介の議』（講談社刊）より

本文イラスト 押切令子

本文デザイン バラストジオ（高橋秀明）

校正 寺尾徳子 今井美穂

編集協力 西 一

オフィス201（新保寛子 小原健）

編集 福島広司 鈴木恵美（幻冬舎）

知識ゼロからの経済学入門

2008年1月25日 第1刷発行

2011年1月25日 第13刷発行

著 者 弘兼憲史

発行人 見城 徹

編集人 福島広司

発行所 株式会社 幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03-5411-6211（編集） 03-5411-6222（営業）

振替 00120-8-767643

印刷・製本所 株式会社 光邦



検印廃止

万一、落丁乱丁のある場合は送料小社負担でお取替致します。小社宛にお送り下さい。
本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。
定価はカバーに表示してあります。

© KENSHI HIROKANE, GENTOSHA 2008

ISBN978-4-344-90117-9 C2033

Printed in Japan

幻冬舎ホームページアドレス <http://www.gentosha.co.jp/>

この本に関するご意見・ご感想をメールでお寄せいただく場合は、comment@gentosha.co.jpまで。

長引く不況を脱した日本だが、日本経済が堅調に伸びていると実感することはあまりない。業績が回復した企業は、その利益を株主配当や役員賞与などに回し、労働者がその恩恵にあずかることができない、という現状もある。さらに日本社会は、驚異的なスピードで少子高齢化が進み、年金システム崩壊が懸念されている。国債の発行残高も増加の一途をたどり、ますます前途は多難であるように思われる。

一方で、大国アメリカはITバブルの崩壊後、順調な経済成長を達成。またBRICsに代表される国々、とくに中国の発展には目を見張るものがある。国際競争で勝ち残るために、日本は改革を迫られている時期であるといえる。

この時代の転換点において、私たちは自己責任で行動することが求められている。その際に武器になるものが経済学だ。自分で考える力を身につけ、世界の出来事をより深く洞察するには、経済学の知識を欠かすことはできない。

なお、本書をまとめるにあたり、明治大学教授高木勝氏に有益なアドバイスとご指導を頂戴した。ここに記し、厚くお礼申し上げます。

二〇〇八年一月

経済学を通じて世界を読み解く

【日本】	高度経済成長のあと、2つの出来事に襲われた……………	10
【日本】	不良債権の処理に追われ、10年もの時間を失う……………	12
【日本】	増え続ける国債の発行は、将来大きな負担になる……………	14
【日本】	少子高齢化社会を迎え、これからどこを目指すのか……………	16
【アメリカ】	サブプライム問題から金融危機が起る……………	18
【アメリカ】	金融危機の影響が広がり世界恐慌へ近づく……………	20
【アジア】	通貨危機がタイからはじまり周辺諸国を巻き込む……………	22
【中国】	空前の成長を続けるなかで、光と影が明確になる……………	24
【中東】	巨額のオイルマネーが、次世代に向けて動きます……………	26
【ヨーロッパ】	巨大経済圏EUの誕生は、世界に大きく影響する……………	28
【ドイツ】	「経済の奇跡」を起こし、世界有数の大国に成長した……………	30
【ロシア】	豊富な天然資源を活かし、成長を続ける……………	32

第2章

生活することは経済活動を行うこと

39

〔南米〕 政治も社会も不安定、それでも経済は堅調に伸びる…………… 34

〔BRICS〕 世界の経済勢力地図を劇的に変える力を秘める…………… 36

《世界の富を手中にした巨人》ジョン・D・ロックフェラー…………… 38

〔経済学とは〕 限りある資源をいかに無駄なく使うかを考える…………… 40

〔経済学を学ぶ〕 自己責任の時代に、最善のものを選ぶ術を学ぶ…………… 42

〔経済学の分野〕 財政問題から環境問題まで、扱う分野は広い…………… 44

歴史を学ぶと経済学はもっとおもしろくなる…………… 46

〔現在の経済学〕 市場に任せる新古典派か、政府介入もあるケインズ学派か…………… 48

〔基本的な概念〕 経済活動から生まれるのは形のある財と形のないサービス…………… 50

〔基本的な概念〕 人、道具、場所がなければ、なにも作れない…………… 52

グローバル化の波のなかで経済は変わった…………… 54

〔経済システム〕 コンビニ、インターネット上、すべての場所が市場になる…………… 56

〔経済システム〕 グローバルスタンダードの市場経済にも問題がある…………… 58

《世界の富を手中にした巨人》コジモ・デ・メディチ…………… 60



買い手と売り手の思惑で値段が決まる——ミクロ経済学の基礎——

【需要曲線】 買い手は、安い値段でたくさん買いたい……………	62
【需要の変化】 ふところ具合や世間の流行が需要を変化させる……………	64
【需要の価格弾力性】 弾力性を考えれば、「いつでも安い」を演出できる……………	66
【供給曲線】 売り手は、高い値段でたくさん売りたい……………	68
【供給の変化】 原材料費の高低や技術の進歩で、供給は変化する……………	70
【供給の価格弾力性】 ものの値段が供給に及ぼす影響を、数字で表す……………	72
【生産理論】 元手をかけるほど儲けが出るわけではない……………	74
【生産理論】 最大の利益を得るために、限界費用と限界収入を見る……………	76
【経済モデル】 価格調整機能によつて、ものの値段は決まる……………	78
【市場構造】 非競争的な市場では、価格調整機能が働かない……………	80
【企業戦略】 「囚人のジレンマ」の理論が活用される……………	82
【逆選択】 買い手と売り手の情報の差が問題を引き起す……………	84
《世界の富を手中にした巨人》ロバート・ウッドラフ……………	86

第4章

国の経済力はGDPに表れる——マクロ経済学の基礎——

87

【GDP】 経済尺度がGNPからGDPへ変わる……………88

【付加価値】 GDPとは、新たに生みだされた付加価値の合計……………90

【三面等価】 作る、買う、得る、それぞれの合計がGDPを示す……………92

どうして景気はよくなったり、悪くなったりするのか……………94

【限界消費性向】 「財布のひも」の締め具合が景気を左右する……………96



マネーが世界を駆けめぐる—金融と財政—

【投資】 お金を借りて行う投資は、利子が高いと減る……………98

【輸出】 貿易相手国の経済状況、為替相場に影響される……………100

【政府支出】 GDPを上げるため、政策によって調整する……………102

【名目・実質GDP】 物価の動きを考えない見方と、考える見方がある……………104

【経済成長率】 経済規模で、日本が中国に抜かれてしまう？……………106

【インフレーション】 ものだけでなく、土地や株価が高騰するとバブルになる……………108

【デフレーション】 企業の収益が下がり、多くの失業者が生まれる……………110

【スタグフレーション】 物価も失業率も上がる現象に、悩まされてきた……………112

【失業】 働きたい人がすべて働ける状態を目指す……………114

《世界の富を手中にした巨人》ビル・ゲイツ……………116

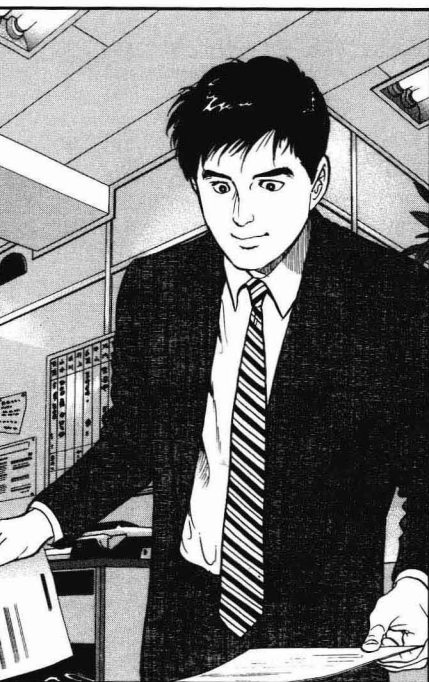
【金融とは】 あるところからないところへ融通する……………118

【中央銀行】 日本銀行には3つの役割がある……………120

【金融政策】 通貨供給量を調整して、物価を安定させる……………122

【金融ビッグバン】 背景には、金融市場の弱体化がある……………124

株式公開は「二人前の会社」の証.....	126
【M&A】 合併・買収は、競争力を強化する戦略のひとつ.....	128
【債券】 国も企業も資金調達のため借金をし、証明書を発行する.....	130
ハイテク技術を使った金融派生商品が台頭してきた.....	132
【ヘッジファンド】 国をも揺るがすビッグマネーを動かす.....	134
【信用取引】 元手がなくても株式の売買ができる.....	136
【証券化】 資金を集める新たな方法が、アメリカではじまった.....	138
アメリカの住宅ローン問題が世界中を巻き込んだ.....	140
【財政とは】 税金と国債の発行が、主な収入源となる.....	142
【財政政策】 経済が停滞しているとき、投資を行う.....	144



日、米、欧、アジア、経済は連動している——国際経済——

【乗数効果】 財政政策は、支出の何倍もの効果を生む……………	146
【年金】 自己責任が年金制度にも導入される……………	148
《世界の富を手中にした巨人》ロスチャイルド家……………	150
【外国為替市場】 お金が商品として取引される……………	152
【変動為替相場】 お金の価値は変動し、為替レートも変わる……………	154
【一物一価】 同じ商品なら、同じ値段がつく……………	156
【購買力平価】 マクドナルドやスターバックスから、為替レートが見える……………	158
【為替差損・差益】 貿易取引は為替に左右される……………	160
為替相場はテロや政治情勢、経済に左右される……………	162
【比較優位】 生産を特化し、メリットを追求する……………	164
【産業の空洞化】 企業の海外進出によって、国内が閑散としていく……………	166
【国際収支】 海外とのやりとりのプラス・マイナスを示す……………	168
《世界の富を手中にした巨人》セル・ローズ……………	170

第1章

経済学を通じて 世界を読み解く

原油価格の高騰、
アメリカ住宅ローンの焦げ付きなど、
世界では日々、さまざまな出来事が起きている。
世界の出来事をより深く理解するには、経済学が欠かせない。



高度経済成長のあと、 2つの出来事に襲われた

●● オイルショックが効率のよい社会を作る ●●

中東産油国は、原油価格を大幅に引き上げ、生産量を削減。
1973年、オイルショックが発生した。



島耕作も、トイレトペーパーを買うために走った?!

トイレトペーパー が消える?!

石油への依存度が高かった日本の経済は大打撃を受けた。物価が急激に上がるという懸念から、「トイレトペーパーがなくなる!」という噂が広まり、全国で買い占めが起こるほど混乱した。この騒動が象徴するように物価は大幅上昇。「狂乱物価」とよばれた。

より燃費のよい社会への変貌

狂乱物価の最中、政府は石油・電力の節約実施、店舗の営業時間短縮、深夜テレビの自粛など、節約キャンペーンを展開。日本は石油を節約する社会構造へと向かう。その甲斐あって、世界有数の省エネ国家に転換した。

1973年、オイルショックが発生。中東産油国からの石油輸入依存度が大きい日本経済は大打撃を受け、狂乱物価を記録した。その後、2度目のオイルショックが起こり、日本の産業構造はサービス業にシフトする。一方、製造業は輸出を増大させるが、貿易摩擦という対立を生みだしてしまった。1985年、ドル高是正をはかるプラザ合意によって、円高ドル安になる。輸出に頼ってきた日本経済は、一気に円高不況に陥るが、公定歩合の引き下げなどの金融緩和政策で不況を克服した。

しかし、景気が回復しても金融緩和政策を続けて、社会は金余り状態に。その資金が投機に向けられ、バブル経済を生みだした。

●● バブル経済はプラザ合意からはじまった ●●

実力以上のドル高によってアメリカ産業の競争力は低下。先進5カ国の代表がニューヨークのプラザホテルに集まり、ドル安に是正することを決定した。

それまでの
日本
は……

年間3～5%と安定した経済成長を達成したが、それは輸出が順調に拡大したため。しかし、輸出は相手国にとっては輸入である。日本の貿易黒字拡大に伴い、貿易摩擦という問題も発生していた。



それまでの
アメリカ
は……

当時のレーガン大統領は、レーガノミックス（大型減税と規制緩和）によって、インフレの沈静化と景気拡大に成功。しかし、巨大な財政赤字と貿易赤字、いわゆる双子の赤字を抱えていた。

プラザ合意

先進国は手持ちのドルを売ることで合意した。

●● 投機が投機をよび経済は膨張した ●●

プラザ合意以降、急速に円高が進み、日本は不況に突入。日銀の金融緩和政策と企業の徹底した合理化により順調に回復したが、そのまま景気が過熱してバブルに突入する。

バブルの背景

公定歩合の引き下げ

円高不況を抜けだすため、公定歩合を引き下げ、企業の営業活動を活発に。

企業の金余り

景気回復後も、金利は低いまま。企業は銀行から融資を受け金余りの状態。

バブルの発生

資産インフレの発生

企業はだぶついた資金で、株や不動産に投資。その結果、市場が過熱して現実の価値以上に株や不動産の価格が上昇する。

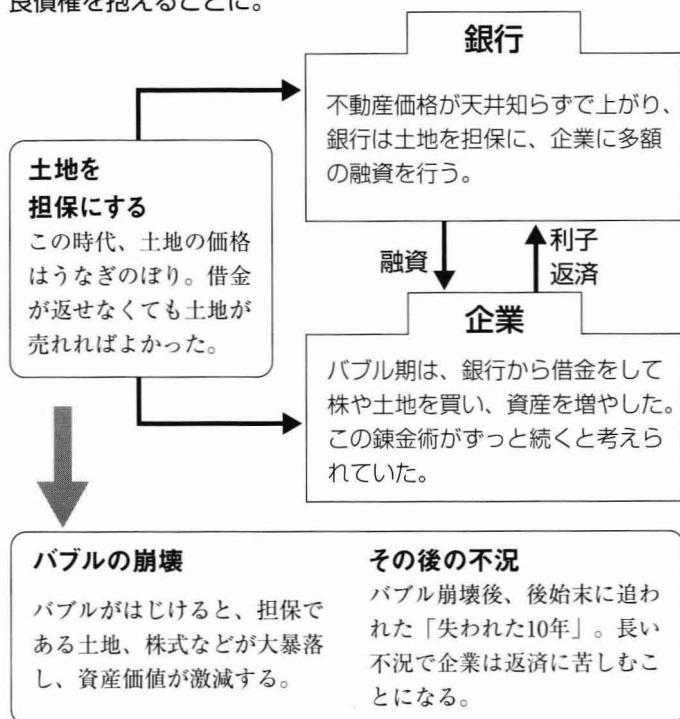
余ったお金は投機へ

過熱した不動産投資により、資産価値が異常な高値に。実体のないことからバブルとよばれ、日銀が金融を引き締めるまで狂乱が続いた。

不良債権の処理に追われ、 10年もの時間を失う

●● 多額の不良債権はこうして生まれた ●●

バブル崩壊後、日本は平成大不況に陥った。株や不動産に投資していた企業は経営が悪化、融資していた銀行は多額の不良債権を抱えることに。



バブル崩壊後、企業は経営が悪化し、銀行からの借り入れが返済不能になった。銀行は巨額の不良債権を抱え、企業に対して資金を貸し渋るようになり、経済は停滞。銀行自身が破綻してしまう例も出た。政府は公的資金を投入して、金融不安を解消しようとする。

不良債権処理には、回収できない見込み金額を貸倒引当金として明らかにする「間接償却」と、不良債権を売却、あるいは完全に放棄して、会計帳簿から消してしまいう「直接償却」の2種類がある。

世界経済が急速にグローバル化しはじめた1990年代、日本は不良債権処理に追われ、世界情勢から遅れをとってしまった。この期間を「失われた10年」とよぶ。



金融機関の破綻を防ぐために公的資金が

不良債権を抱えた銀行は、経営が不安定になり、破綻する銀行も出はじめた。

社会混乱をまねく金融機関の破綻

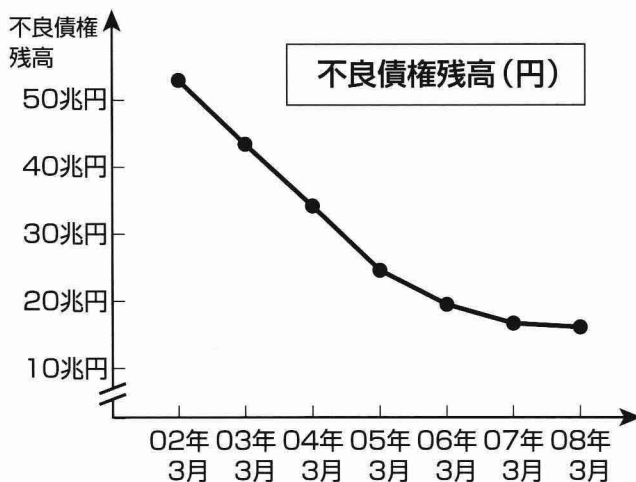
銀行が経営不振になると、預けているお金が保証されなくなるという不安から、預金を下ろす人が増え、ますます銀行の資産が減り経営が悪化。

公的資金の投入

このまま放っておくと銀行が破綻し金融不安が連鎖していく恐れがある。政府が銀行経営を回復させるために、公的資金を投入する。

不良債権は着実に減ってきている

資産デフレが進行して不良債権が膨らんだ銀行は、同業種の企業と合併や業務提携をすることで、経営体力を徐々に回復。不良債権処理も進む。

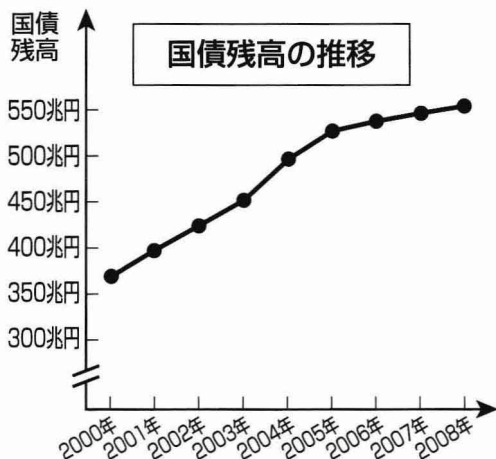


不良債権の基準には「銀行法」「金融再生法」「早期是正措置」の3つがある。左の表は金融再生法に準じた不良債権の残高。年々、着実に減少していることがわかる。

(出典:金融庁「20年3月期における不良債権状況等」)

●● 天井知らずの国債発行残高 ●●

政府は国民などから借金をしている、とよく耳にするが、日本の現在の財政状況は極めて不健全だ。



2007年度末、普通国債の発行残高が547兆円に達する見込みだ。国民ひとりあたり400万円以上の借金を抱える計算になる。税収が上がらない現在、国債の発行は借金を増やすばかりだ。

(出典:財務省ホームページ「公債残高の累増」)

増え続ける国債の発行は、
将来大きな負担になる

将来の増税につながる危険性も

国の借金を減らすためには、その財源をどこかに求めなければならぬ。しかし、景気が回復しない限り、税収の増加は期待できない。その結果、将来増税が行われ、次世代に負担を残すことが懸念される。

バブル崩壊とともに、日本の財政も悪化した。バブル崩壊から脱却するために大型の経済政策が繰り返されたが、その財源のほとんどは国債でまかなわれてきた。

国債は公債のひとつで、国民などからお金を借りて資金を調達する方法だ。公共事業に充てる「建設国債」と、税収不足を補う「赤字国債」に分かれる。地方公共団体が発行すれば「地方債」となる。国債は一定の金利が約束されており、銀行などの金融機関が市場の売買を通じて保有している。また、2005年度からは個人投資家も購入できる「個人国債」が発行された。いずれにせよ国債は借金。いつかは利子をつけて返済しなければならない。